

令和5年度 小平市立小平第二中学校 学校評価報告書

| 学校教育目標 | 1 自ら考え正しく判断し積極的に実践する人間 3 社会の一員として協力し向上につとめる人間 | 2 明るく健康で情操の豊かな人間 4 相手の人格や立場を尊重する人間 | | | | | | |
|--|---|---------------------------------------|------|---|-------|------|--|--|
| 目指す学校像(ビジョン) | | | | | | | | |
| 【目指す学校像】 1 上級生が下級生のお手本になる学校、2 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校、3 落ち着いており、生徒・保護者・地域から信頼される学校 | | | | | | | | |
| 【目指す児童・生徒像】 1 自ら考え、正しく判断し、積極的に実践する人間、2 明るく健康で、情操豊かな人間、3 社会の一員として協力し、向上に努める人間、4 相手の人格や立場を尊重する人間 | | | | | | | | |
| 【目指す教員像】 面倒見が良く、心の熱い教員のいる学校。教職員一人一人が高い志をもち、組織力を高める教員。 | | | | | | | | |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | | | | | | | | |
| ○生徒の学力を向上させるために若手教員の授業力を高めるとともに、ユニバーサルデザインとICTを組み合わせた、分かりやすい授業づくりに取り組むことが課題である。 | | | | | | | | |
| ○これまで築き上げてきた生徒指導等における知の継承が課題である。 | | | | | | | | |
| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 成果・課題・次年度以降の対策 |
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | 授業の「ながれ」や「めあて」を示すなど、共通取組事項に基づいた授業実践を行う。 | 4 | 4 | 「ながれ」や「めあて」等を記載したマグネットシートを作成、配布し、教員が手軽に利用できるようにした。全ての教員が共通取組事項に基づいて授業実践できるよう、引き続き働きかけていく。 | 4 | 4 | ・共通して実践する環境をつくること ができた。授業公開も指導力向上につながったようである。 ・ICT機器の活用は教員間の差があり、改善の余地がある。 ・一部のテストや評価、提出物の提出状況に課題があったようである。 | 授業における「二中スタンダード」として2年間取り組んだ結果、生徒にとってわかりやすい授業づくりに対する教員の意識が高まった。この取組を特別なこととしてではなく、当たり前のこととして今後も継続していく。 |
| | 全ての教員が年1回以上授業を公開し、研究協議を実施する。 | 4 | 4 | 授業研究を重ねるごとに教員の意識が向上している様子がうかがえる。着実に実施していく。 | 4 | 4 | | このような形態の授業研究に取り組み2年になるが、教員の中におおむね定着してきた。次年度は、研究テーマに即した視点からの授業研究を実施していく。 |
| 健全育成（いじめ防止） | 生徒会活動や学級での係・委員会、班活動に積極的に取り組ませるために、生徒一人一人の出番をつくる。 | 4 | 4 | どのクラスにおいても行事や学級活動において生徒の活躍する場面をつくり、取り組ませられている。今後も続けていく。 | 4 | 4 | ・取り組み・成果とも数値は良好である。 ・SNSに関する取り組みがもう少しあって良い。SNS講座の実施等検討してはどうか。 | 各種行事や生徒会活動、学級での係・委員会、班活動に積極的に取り組ませ、生徒一人一人の出番をつくることのできた。次年度も継続していく。 |
| | 「ふれあい月間アンケート」を年3回、いじめ対策校内委員会を5月から毎月1回実施し、いじめを発見した際は組織的な対応で早期解決を目指す。 | 3 | 4 | 「ふれあい月間アンケート」や生活ノートを通して生徒の情報をつかみ、いじめを見逃さないようにできている。引き続きアンテナを高くして、いじめが起きない環境づくりに努めていく。 | 4 | 4 | ・少数者の意見に対し、個別対応の体制づくりが必要。 ・いじめについての記載やふれあいアンケートの結果について、学校はどのように対応しているか示せると良い。 | 「ふれあい月間アンケート」や生活ノートを通して生徒の情報をつかみ、いじめを見逃さないようにすることができた。しかし、SNSに関するトラブルが複数あったので、次年度のセーフティ教室ではSNSに関するテーマを取り上げて実施する。 |
| | WEBQUアンケートを年2回実施し、生徒の学級での生活状況を把握する。 | 4 | 4 | WEBQUアンケートのフィードバック研修を通して、結果の活用方法を学び、生徒への声かけや支援につながられている。第2回目の結果と比較し、必要な手立てを行っていく。 | 4 | 4 | | WEBQUアンケートを導入したことで生徒や学級の状況が可視化され、それに基づき指導を行うことができた。アンケート結果を十分に活用できているかと言うとまだ不十分なので、さらに研修を積んで指導力を高めていくことが課題である。 |
| キャリア教育 | 毎学期「キャリアパスポート」のまとめを通して、自己理解を促進させる。 | 4 | 3 | 学活や総合的な学習の時間を通して、生徒の自己理解を深めさせられている。生徒にさらに働きかけて行く。 | 4 | 3 | ・先生方と生徒の評価に差異がある。アンケートのとり方にも課題あるのでは。 | 学活や総合的な学習の時間を通して、生徒の自己理解を深めさせられた。生徒の意識に十分浸透させることができるよう、指導方法を検討していく。 |
| | 生徒が主体的に関わる生徒会、委員会、実行委員会活動を実践するために、生徒(役員、実行委員等)が進行する場面を設定する。 | 4 | 3 | 生徒会活動や学校行事で生徒が主体的に関わる場面をつくることができている。引き続き取り組んでいく。 | 4 | 3 | ・学期の反省を書いて終わっており、保護者に結果を伝えていくことが少ない。 ・一人一人の活躍の場をもっとつくと良い。 | 生徒会活動や学校行事で生徒が主体的に関わる場面をつくることができている。一人一人の活躍の場を一層増やせるよう引き続き取り組んでいく。 |
| 業務改善・働き方改革 | 学校だより等のデジタル配信を推進し、勤務時間の減少や紙使用量の削減に取り組む。 | 4 | 4 | いろいろな配布物でデジタル配信に取り組んでいる。今年度学校だよりは保護者からの要望で紙ベースのものも配布しているが、次年度からは希望制にし、紙使用量の削減に努めていく。 | 3 | 4 | ・国の基準からみると、良好な結果と言える。 ・過当たりの在校時間については、休日も含め記録を付けていながら動向を見ていく必要がある。 | 学校だより等のデジタル配信を推進し、勤務時間の減少や紙使用量の削減に取り組むことができた。教科指導や諸活動において紙使用量を削減できるよう研究を行っていく。 |
| | 週当たりの在校時間が60時間を超えることがないよう、月ごとの時間外勤務時間の結果を基に、次の月の目標を立てる。 | 2 | 3 | 一部の教員で長引く傾向が見られるので、仕事の分担の見直しを実施していく。 | 3 | 3 | | 令和4年度と比較し、時間外勤務時間が7%減少させることができた。しかし、依然、時間外勤務時間が長引く教員が数名いるので、仕事分担の見直しを行っていく。 |
| | 職員室や教科準備室等の整理整頓を実施したり、ライフワークバランスの具体的な目標を立てたりする。 | 4 | 4 | 「そうじの日」などを通して、前年度より職員室の整理整頓が進んだ。 | 4 | 4 | | 職員室や教科準備室等の整理整頓を実施することができた。しかし、まだ十分に整っていないので、継続して取り組んでいく。 |